

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 沼 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

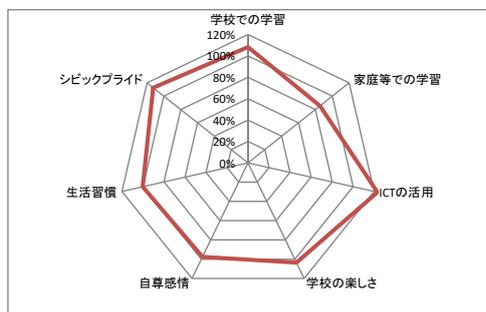
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	記述式問題の繰回答率が全国平均よりも高くなっている。目的や意図に応じて話題を決めたり、集めた材料を分類・関係付けたり、伝え合う内容を検討する場を日常生活と関連付けたりする活動の充実を図っていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	記述式問題の無回答率が全国平均よりも高くなっている。単元を通して、授業の中で、言葉や図・数・式・グラフなどを適切に用いて、思考の過程や判断の根拠などを表現したり、説明したりする活動の充実を図っていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
○	「授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」について1時間以上と回答した児童の割合が全国平均を下回っていた。全校で自主学習の時間の目安(10分×学年)を示したり、個に応じた自主学習の量・内容・出し方を工夫したりするなど、改善や啓発の必要がある。
○	「自分には、よいところがあると思う」について肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を下回っていた。児童の成長を認め、適宜称賛するとともに、互いのよさを伝え合えるような場を設定し、今後も自己肯定感や自己有用感が高まるように工夫していく必要がある。
○	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について肯定的な回答をした児童の割合が9割程度であった。学校は地域の方に支えられているという意識や関心をもたせる取組を、今後も継続していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」をおさえ、児童が「できた」「分かった」が実感できる授業を繰り返し実践する。
- 友達と意見を交換したり、自分の意見をまとめ発表したりする場面でも、ICT機器を効果的に活用する。
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る補充学習の取組を推進する。(朝の学習タイムの見直しやひまわり教室の充実)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 自主学習ノート(3年生以上)を活用し、「書くこと」を習慣化する内容を取り入れる。(日記、今日の学習の振り返り等)また、学年通信や学校通信を通じて、学習時間・学習内容・学習方法などについて、具体的に児童及び保護者へ啓発を行う。
- あいさつ運動やもくもく掃除等において、縦割りグループを活用した活動に継続的に取り組み、自尊感情が高まるようにする。